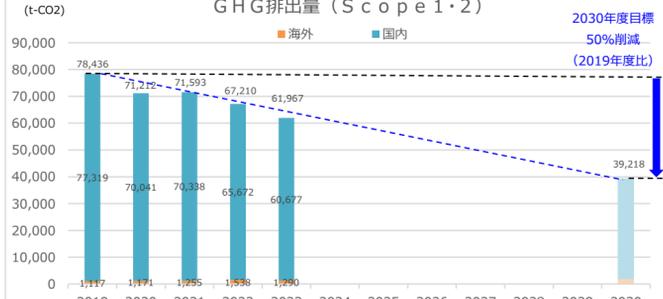


Eco Action Plan 2030 (実績)

環境ビジョン	EAP2030目標	基準年 (※1)		2023年度
		実績(%)	実績(千t-CO2)	実績
脱炭素社会	① Scope1,2排出量 2030年度 50%減 (2019年度比) 対象: 国内+海外	目標(%)	—	-18.2%
		実績(%)	—	-21.0%
	実績(千t-CO2)	78.4	62.0	
	評価	—	★★★	
② Scope3排出量 2030年度 30%減 (2019年度比) 対象: 国内+海外	目標(%)	—	-10.9%	
	実績(%)	—	-8.2%	
資源循環社会	③ 枯渇性資源使用量 2030年度 30%減 (2013年度比) 対象: 国内	目標(%)	—	-17.6%
		実績(%)	—	12.8%
	実績(千t)	65.4	73.8	
	評価	—	★	
自然共生社会	④ 水使用量 生産数原単位1%改善 (前年比) 対象: 国内+海外	目標(%)	—	99.0%
		実績(%)	—	9.5%
	原単位	9.4	9.5	
	原単位前年比	—	101.1%	
		評価	—	★

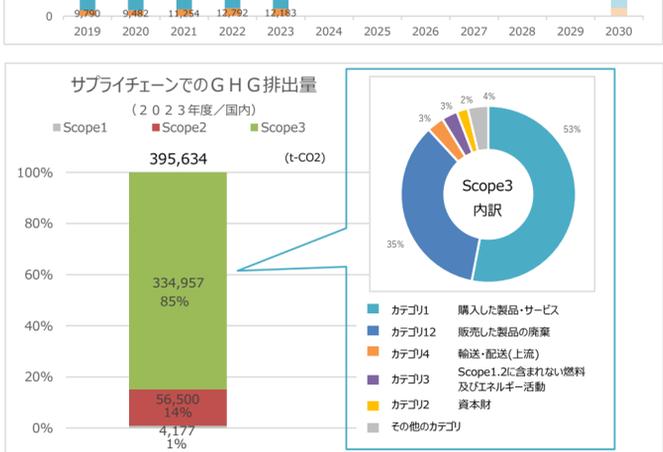
※1: 基準年①2019年度、②2013年度 ④2023年度より変更 (2022年度までは総量目標)

Scope1、2排出量 (国内+海外)



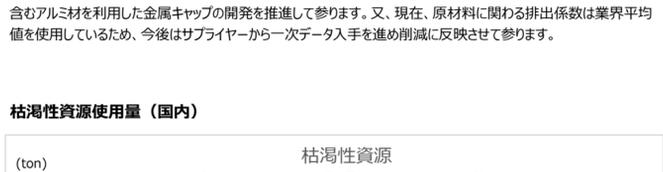
2023年度は省エネ及び事業構造変化（小牧工場の印刷棟閉場及び旧プラスチック製造棟閉場）により前年比7.8%削減し、目標（2019年比18.2%削減）を達成しました。引き続き目標達成に向け省エネ+創エネに計画的に取り組んで参ります。（目標未達の場合はFIT非化石証書を購入予定）

Scope3排出量 (国内+海外)



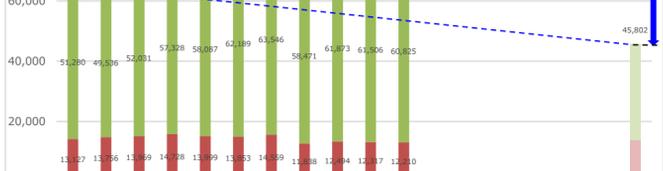
当社のScope3排出量は「カテゴリ1 / 購入した製品・サービス」と「カテゴリ12 / 販売した製品の廃棄」でScope3全体の88%を占めております。これまでPET飲料用キャップの軽量化に取り組んで参りましたが、2023年度は目標未達となりました。今後は、主力製品であるPET飲料用キャップのさらなる軽量化や再生材の利用、再生地金を多く含むアルミ材を利用した金属キャップの開発を推進して参ります。又、現在、原材料に関わる排出係数は業界平均値を使用しているため、今後はサプライヤーから一次データ入手を進め削減に反映させて参ります。

枯渇性資源使用量 (国内)



2016年以降樹脂製キャップの生産数増加の影響を受け目標未達の状態です。Scope3と同様に主に軽量化や低炭素材料の利用に向けた開発を進め目標達成を目指します。

水使用量 (国内+海外)



2021年までに老朽化した水配管の漏洩補修を行い水使用量が減少しました。今後も水使用量を定期的に監視して漏洩の早期発見に繋げるとともに、近年の猛暑の影響でクーリングタワーの蒸発量が多い傾向にあるため削減に向けた検討も進めて参ります。

主要環境パフォーマンスデータ

マテリアルフロー (国内2023年度)

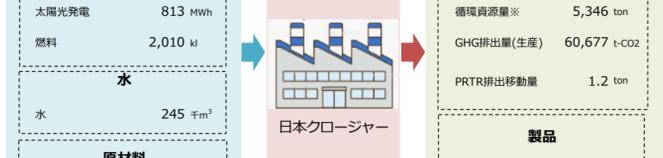


エネルギー使用量※ (国内)



※: 電力+燃料使用量 (原油換算)

電力使用量 (国内)

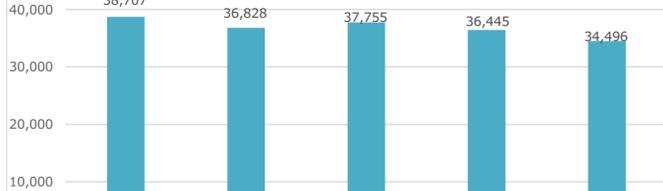


燃料使用量 (国内)



当社のエネルギー使用量のうち94%が電力使用によるものです。毎年、省エネ法の目標であるエネルギー原単位1%改善を達成すべく、省エネ活動を推進しております。

廃棄物量 (国内)



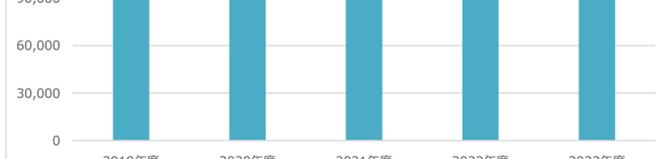
廃プラスチック類 (国内)



事業所から排出される廃棄物は年々減少し、2023年度は再生率は99%以上(※1)、マテリアル率は95%以上(※2)となっています。特に廃プラスチック類は、2040年度排出0を目指し削減活動に取り組んでいます。

※1: サーマルカバリー含む ※2: サーマルカバリー除くマテリアルサイクル率

製品輸送GHG排出量 (国内)



当社の製品輸送による環境負荷は3,000ton-km/年を超えており、特定荷主として削減に向け輸送効率改善を進めております。具体的には生産拠点の見直しやモーダルシフト(陸送の一部を船便等へ)の取り組みを行っております。